

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	理 科
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①問題を把握するための活動が呼びかけの形で提示されている。児童が対話しているイラスト等を用いて、学習のめあてや視点が示されている。学習内容の定着を図る「たしかめよう」が設けられている。</p> <p>②学習内容に関わっている人物へのインタビューコーナーを掲載し、実生活・実社会との関連付けがされている。単元末の問題では、日常生活での現象を取り上げて説明されている。</p> <p>③準備物の記載がある。実験や観察の方法が番号や写真、図等を用いて説明されている。器具の使い方が巻末に示されるとともに、安全に対して配慮が必要な箇所にマークがあり、意味や対処の仕方が赤字で示されている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>①導入部分において単元の学習内容や学習課題を想起しやすくするための活動が取り入れられている。</p> <p>②問題解決の流れがひと目で分かるようなレイアウトになっている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>①巻頭に「理科の学び方」として、問題解決の流れと学習のポイントがマークを用いて提示されている。</p> <p>②単元外の内容を取り上げた「理科の世界 探検部」のコーナーで現代的な課題に関わる内容及び発展的な内容が扱われている。また、巻末の「理科とプログラミング」のページでプログラミング学習の内容が扱われている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>①写真のサイズが大きく、変化や特徴等を細かく観察できるように工夫されている。また、ICTを活用した学習活動を選択できるように、QRコンテンツが提示されている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>①考察の視点が書かれている。関連付けられた結論・比較に基づく特徴・既習の内容との比較を用いた記述がされている。</p> <p>②児童の対話を例示している箇所がある。巻末に発表や話し合いの際の留意点が示されている。結果をどのように表現するのか例示されている。</p>

	<p>る。單元ごとに分かったことが示してあり、児童がまとめる際のヒントとなっている。また、その中に自分の言葉で説明する部分がある。</p>
大日本	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①日常の事象・現象の写真や動画を示して問題を見出させ、キャラクターが話し合う形で気付きやポイントが示されている。学習内容を定着させるための「たしかめよう」等が設けられ、単元の学習を振り返ることができるようになっている。</p> <p>②学習内容と実生活の関連を伝える内容のコーナーが掲載されている。また、中学校で学ぶ発展した学習内容も掲載されている。単元末の問題で、日常の現象を取り上げて説明させるようになっている。</p> <p>③準備物の記載はないが2次元コードで示されている。番号や図などで手順が示されている。安全に配慮が必要なところに赤字で「注意」の記述があり、巻末に器具の使い方などが記されている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>①導入部分において、自分たちの生活と学習内容を結び付けやすいように、日常生活の写真やイラストが活用されている。</p> <p>②学習につながる知識・経験が、単元の初めの活動によって、全児童に提供される学習の流れになっている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>①巻頭に「理科の学び方」として、問題解決の流れと学習のポイントの提示がされている。</p> <p>②単元外の内容を取り上げた「りかのたまてばこ」のコーナーで、現代的な課題に関わる内容及び発展的な内容が取り扱われている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>①文字のサイズを大きくしたり、要点を強調したりして、読みやすくなるように工夫がされている。また、また、プログラミング学習と防災学習を関連付けた内容が扱われている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>①考察の視点が書かれている。関連付けられた結論・比較に基づく特徴・既習の内容との比較を用いた記述がされている。</p> <p>②学習過程において、机を挟んで話し合う形で児童の対話を示している箇所がある。結果をどのように表現するのか例示されている。單元ごとに自分の考えを言葉で説明する部分がある。</p>
学 図	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①日常の事物・現象を写真や動画で示し、キャラクターの会話の気付きから問題を見出させるようになっている。育成すべき資質・能力が</p>

	<p>「理科モンスター」として明記されている。学習内容の定着を図るための振り返りや単元でできるようになったことの例が示されている。</p> <p>②学習内容が仕事や生活に生かされている様子を掲載している。特に「やってみよう」で、日常生活での現象を取り上げ、その現象が起こる理由について説明させるようになっている。</p> <p>③準備物の記載があり、実験や観察の方法が番号や写真、図等を用いて説明されている。安全に対して配慮が必要な箇所に「注意」マークがあり、意味や対処の仕方が赤文字で示されている。また、器具の使い方が巻末に記載されている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>①導入部分において、単元で身に付けられる力が提示され、学習展開や学習のゴールがイメージしやすいようになっている。</p> <p>②課題解決に必要な力を表すキャラクターがおり、問題にアプローチする方法が示されている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>①巻頭に「科学の芽を育てよう」と題して、学習の中で働かせたい「見方・考え方」が示されている。</p> <p>②単元外の内容を取り上げた「もっとしりたい」のコーナーで、現代的な課題に関わる内容及び発展的な内容が扱われている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>①写真が明瞭で、特徴を見出したり、比較したりし易くなっている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>①考察の視点が書かれている。関連付けられた結論・比較に基づく特徴・既習の内容との比較を用いた記述がされている。それに加え、事象を解釈した記述がされている。</p> <p>②巻末に説明の際の留意点が示されている。結果・考察等、どのように表現するのか例示されている。単元ごとに「ふりかえろう」があり、活用で事象の説明をさせる部分がある。</p>
<p>教 出</p>	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①事象を提示して問題を見出させ、「見方のカギ」「考え方のカギ」を明記して、学習の見通しがもてるようになっている。「学習前」「学習後」の考えの変化に注目させることで学習内容の定着を目指している。</p> <p>②学習内容が日常生活や実社会と関連していることを意識するコーナーが掲載されている。単元末の問題の最終問題に活用の内容があり、児童に現象を説明させるようになっている。</p>

	<p>③準備物の記載があり、実験や観察の方法が番号や矢印、写真、図等を用いて説明されている。安全に配慮が必要なところに、「危険」「注意」マークがあり、対処の仕方が赤文字で示されている。また、器具の使い方が巻末に記載されている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>①導入部分において、既習事項や上の学年との繋がりを確認したり想起したりしやすいようになっている。</p> <p>②児童同士の話し合いの場面、教師と児童の話し合いの場面があり、気付かせたい内容と、教える内容が示されている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>①巻頭に「学習の進め方」と「ノートのとり方」が提示されている。また、「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」と題し、話型が例示されている。</p> <p>②単元外の内容を取り上げた「科学のまど」のコーナーで現代的な課題に関わる内容及び発展的な内容が取り扱われている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>①観察ノートや、実験の記録の仕方の例が提示され、どのように整理していくかが分かりやすいようになっている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>①考察の視点が書かれているとともに、予想を基に考察をするよう促されている。関連付けられた結論・比較に基づく特徴・既習の内容との比較を用いた記述がされている。</p> <p>②巻頭に説明の際の留意点が示されている。予想・計画等の表現の例示がある。単元ごとに「ふり返ろう」があり、自分でまとめる際のヒントとなっている。また、分かったことから日常の事象を説明する部分がある。</p>
啓林館	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①下学年の既習事項や日常の事象などから問題が提示されている。「ふり返ろう まとめノート」で学習内容のまとめが示され、学習内容の定着を図るための「たしかめよう」等が設けられている。</p> <p>②学習内容が実生活・実社会と関連付いている内容を記載するコーナーが設けられている。単元末に「活用しよう」が設けられ、日常生活での現象を取り上げ、児童に現象を説明させるようになっている。</p> <p>③準備物の記載があり、実験や観察の方法が番号や点線、写真、図等を用いて説明されている。初めて使う器具については同ページに記載されている。安全に対して配慮が必要なところには、「注意」や「かん</p>

気」，「やけど」等のマークがあり，赤文字で示されている。

#### 第2の観点

- ①導入部分において既習事項の図や写真が明記されており，既習事項から新たな課題を見出しやすくなっている。
- ②注目する視点に気付かせるために，児童の話し合いの内容例が吹き出しになっており，さらにその一部に下線が引かれている。

#### 第3の観点

- ①巻頭に「理科の学び方」として，問題解決の流れと学習のポイントの例示がされている。また，季節との関係性を重視したり，同じ領域区分の単元間で関連があるもの同士を続けて学習したりする単元配列になっている。
- ②「くらしとリンク」のコーナーで，現代的な課題に関わる内容及び発展的な内容，プログラミング学習の内容が扱われている。

#### 第4の観点

- ①これまでに学習した大切なことを振り返る「まとめノート」が提示されており，学習内容を振り返ることができるようになっている。

#### 第5の観点

- ①考察の視点が書かれている。関連付けられた結論・比較に基づく特徴・既習の内容との比較を用いた記述がされている。
- ②巻末に話し合いの留意点が示されている。結果等をどのように表現するのかが例示されている。単元ごとに「ふり返ろう まとめノート」があり，自分でまとめる際のヒントとなっている。また，「たしかめよう」では，学んだことを使って説明する学習が設定されている。